

新任教授挨拶

九州地方会の発展に望むこと

福岡歯科大学

成長発達歯学講座成育小児歯科学分野 尾崎 正雄



日本小児歯科学会九州地方会が創立30周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。今日に至るまで九州地方会の発展・充実にご尽力くださいました諸先生ならびに現会員の皆様に厚く御礼申し上げます。さて、月日は早いもので、1983年に福岡歯科大学が担当して行われました第一回大会から30年が過ぎました。大会の次の日にみんなで仲良くソフトボール大会をしたのを思い出します。当時、小児歯科の医局に入ったばかりの私も初代吉田 穰教授、2代目の本川 渉教授、そして3代目の教授として教室の運営を任されることになりました。入局した当時は、いわゆるむし歯の洪水状態で、今では当時とは比べることが出来ないくらい齲蝕が軽症化しており、大学病院に来院される患者様の疾病構造が変化し、臨床内容も変化してきています。1つは、不正咬合を主訴とした患者様と、過剰歯や埋伏歯を中心とした手術目的に紹介で来院される患者様が増加している事です。このように小児歯科における治療が多様化したことで、小児歯科の本当の未来を考え直す時期、すなわち小児歯科のアイデンティティを探す時期に来ていると思います。心理学者のE.H.エリクソンによりますと、「アイデンティティの形成ということは、生きている人間が、その生涯の最後の最後まで追いつける虹のようなものだ。もしもそれを我々も意識的に活用できるようになれば、きっと想像もつかない独創的な仕事を成し遂げられるかもしれない」と述べています。私達の若かった頃は、九州地方会が中心となって小児歯科の未来を語り合っていたものです。残念ながら、今はその機会も少なくなり地方会としてのアイデンティティが少なくなっているように思えます。人は、目標を達成できなかった時に、大きくモチベーションが下がってしまいます。モチベーションを高く維持していくためには、目標の達成感を常に感じていることが、極めて大事であると、私は考えています。また、自分の知識、技術が足りないことで、仕事がかどらないことも、モチベーション低下へとつながる場合があります。仕事で使う知識・技術を常に向上させるため、また自分に自信を持つことの根拠・裏付けとするためにも、自己投資としての勉強が大事だと思います。九州地方会は、全国学会と違って、身の丈の同じもの同士が、いろんな症例を出し合って九州の小児歯科が患者様を中心としてどのように発展させるべきかを話し合う場であって欲しいと考えています。小児歯科の専門医は、まだ全国の歯科医師の1%程度でしかありません。日本小児歯科学会九州地方会が、みんな仲良く手を取り合って、子ども達の口腔と全身の健康を守る愛の戦士となって活躍することを願っています。私は、これからは地方会の一員として諸先生方のお役に立てるよう病診連携を重視した診療体系を整えて行きたいと思っています。また、時代の流れの変化に対応できる小児歯科専門医を育て、地域医療に貢献していきたいと考えております一緒に頑張っていきましょう。